江戸時代に思いをはせ

ふるさと企画舎 相賀～鷲下探訪に20人

紀北町のNPO法人ふるさと企画舎（田上至理事長）が九日午前九時から「道中日記をたどる〝このもと～銚子川～鷲下〟」と題した旧熊野街道探訪イベントを行った。

紀北町の「まちを元気にする地域づくり事業」の補助金を受けて実施した交流空間事業で、地元を中心に熊野市や松阪市、津市の小学一年生から八十代のお年寄りまで二十人が参加。来年、熊野市五郷町寺谷の庄屋の娘を題材にした「油屋お紺」の芝居を予定している紀の川良子さんも役作りの一環としてプロデューサーと一緒に加わり、尾鷲組大庄屋文書の調査でおなじみの塚本明三重大学人文学部教授や、海山郷土史研究会の国分征出夫さん、北村進さんらの案内で、江戸時代の旅人が歩いたこのもと（相賀）から馬越峠入口の鷲下旅籠跡までおよそ三・五キロの旧熊野街道をたどった。

午前九時に相賀の高村石油に集合した一行は、若林商店前から旧熊野街道に入り、相賀神社に立ち寄ったり、大正時代に建てられた古民家や明治初期から後期に建てられた林業家の旧家などを鑑賞。このうち、野中茂樹さん宅では手入れの行き届いた中庭や、江戸時代の瓦を使って明治四十年ごろに建てられた離れも見せてもらった。

このあと、雲祥寺、真興寺のはまぐり石、町の出口だった銚子の渡しを経て便ノ山に向かい、江戸時代に川が増水した時などに旅人が利用したといわれる便ノ山の舟渡しを体験して川原の茶屋でおにぎりとアオサ汁に舌鼓。さらに、発掘石畳を経て、鷲下旅籠跡まで四時間半ほどかけて散策し、江戸時代の旅に思いをはせた。

相賀で古民家を鑑賞する参加者